

日本学術振興会拠点形成事業 シンポジウム開催報告

12月6日7日 同志社大学 京田辺キャンパス 医心館

拠点形成事業の海外側拠点の研究室の主任研究者および関係者と、日本側の主要研究者が同志社大学京田辺キャンパスにおいて、それぞれの最新のシナプス研究の口演発表を2日間に分けて行った。事業担当者以外に Henrique von Gersdorff 氏 (ボラム研究所)、慶応義塾大学の柚崎通介教授を招いた。海外からの比較的少人数で突っ込んだ議論をとの要望に沿い、50人から60人程度の聴衆の中、1人当たり30-40分程度のトークに対して10-15分程度で突っ込んだ議論をおこなうことで、神経シナプス研究分野における課題を深く掘り下げを試みた。一方、若手研究者にはポスター発表(合計24)によって海外の一線級の研究者に触れる機会を設けた。さらに懇談会を設定することで、研究に関してよりオープンに議論する場を設け、ここで今後の共同研究の提案、検討が行われた。海外側、国内側からも概して好評であり、来年の継続開催(若手中心)が海外側からも強く要望された。

主要口演者 (敬称略)

海外側 Tobias Moser (Uni Goettingen), Erwin Neher, (Max Planck Institute), Stefan Hallermann (ENI), Volker Haucke (FMP Berlin), Christian Rosenmund (Humboldt Univ, Berlin), Alain Marty (Uni Paris 5), Isabel Llano (Uni Paris 5), Federico Trigo (Uni Paris 5), Angus Silver (UCL), Henrique von Gersdorff (OHSU, Vollum Inst)

日本側 柚崎通介(慶応)、重本隆一(生理研)、合田裕紀子(理研)、高橋智幸(同志社)、高森茂雄(同志社)

